

東久留米市立図書館のあり方に関する
検討委員会報告

平成24年2月

東久留米市立図書館のあり方に関する検討委員会

はじめに

東久留米市立図書館は、市民の教養と文化の向上を図るため、図書館法に基づき条例で設置された公立の図書館で、市の社会教育施設の一つです。

東久留米市の社会教育施設については、社会情勢や経済状況の変化を受け「東久留米市社会教育施設のあり方に関する検討委員会」を設け検討を行いました。平成19年2月にそこでの報告書がまとめられ、「図書館の今後のあり方については、他市の動向等を注視し、市民サービスの向上、効率的な運営に向けて、どのような運営方法が望ましいのか、広い観点から検討を進めていく必要がある。」としています。さらに、平成21年3月の「第三次東久留米市行財政改革基本方針 行財政改革プラン（改訂）」で図書館運営管理に関するアウトソーシング導入への取り組みが目標として設定され、現計画である「東久留米市第4次行財政改革基本方針 行財政改革アクションプラン（改定版）」（以下「行財政改革アクションプラン」という）においては、地区館の新しい体制による図書館運営の実施が示されました、

図書館では、これらの検討を進めるにあたり「図書館の基本理念」や「地域社会と図書館」、「図書館のはたらき」などを「市民と共に歩む図書館をめざして ― 東久留米市立図書館のめざすもの―」としてまとめました。

本委員会は、「東久留米市社会教育施設のあり方に関する検討委員会」の検討や行財政改革アクションプランを踏まえつつ、「市民と共に歩む図書館をめざして― 東久留米市立図書館のめざすもの―」を受け、「すべての市民がよりよく生きるための力を身に付け21世紀にふさわしい図書館サービスが受けられることで市民の暮らしは豊かになり、地域に活気が生まれてくる。市民と共に成長する図書館をめざす。」ことを目標に、図書館の運営などについて検討を進めました。

厳しい財政状況にあっても、市民サービスの向上に努めていくことが求められています。この報告書が、その一助になることを期待しています。

目 次

はじめに

I	「市民と共に歩む図書館をめざしてー東久留米市立図書館の めざすものー」（平成22年9月東久留米市立図書館）の概念図	1
II	図書館の現状と課題	2
1	地域に根ざす図書館	
2	資料の充実	
3	図書館は地域の百科事典	
4	学校との連携	
5	図書館利用に障がいのある人々へのサービスの充実	
6	図書館はすべての世代の支援施設	
7	滞在型利用ができる地域のサロン	
8	国際化の窓口	
9	図書館員はアドバイザーでありプランナー	
10	広報活動の充実	
11	市役所と連携し行政資料のオンライン化	
III	今後の取り組み	8
1	市民ニーズに合ったサービスの向上	
2	資料・蔵書の充実	
3	すべての市民に学習機会を提供	
4	市民の交流の場としての図書館	
5	課題に対応するための図書館の運営	
IV	新たな図書館の運営	10
1	実現の方向性	
2	中央図書館の運営	
3	地区館の運営	
4	効率的な運営と経費配分の見直し	
V	おわりに	12

I 「市民と共に歩む図書館をめざしてー東久留米市立図書館の
めざすものー」（平成22年9月東久留米市立図書館）の概念図

東久留米市立図書館

ー市民と共に歩む図書館をめざしてー

1 図書館の基本理念

地域を支える図書館

2 地域社会と図書館

- (1) 図書館はまちの情報拠点
- (2) 市民とのパートナーシップ
- (3) 図書館は生涯学習の中核施設

すべての市民がよりよく生きるための力を身に付け
21世紀にふさわしい図書館サービスが受けられることで
市民の暮らしは豊かになり、地域に活気が生まれてくる。
市民と共に成長する図書館をめざす。

3 図書館のはたらき

- (1) 地域に根ざす図書館
- (2) 資料の充実
- (3) 図書館は地域の百科事典
- (4) 学校との連携
- (5) 図書館利用に障がいのある人々へのサービスの充実
- (6) 図書館はすべての世代の支援施設
- (7) 滞在型利用ができる地域のサロン
- (8) 国際化の窓口
- (9) 図書館員はアドバイザーでありプランナー
- (10) 広報活動の充実
- (11) 市役所と連携し行政資料のオンライン化

Ⅱ 図書館の現状と課題

「市民と共に歩む図書館をめざして―東久留米市立図書館のめざすもの―」（平成22年9月東久留米市立図書館）にあげられている「図書館のはたらき」の11項目にそって、現状と課題の抽出を行いました。

1 地域に根ざす図書館

①夜間対応窓口の設置 ②中央図書館に専門的な業務を一元化 ③地区館は地域に根ざした図書館に ④まちの情報を積極的に収集 ⑤市民の憩いの場の提供 ⑥行政情報センター化 ⑦図書館協議会や利用者懇談会を開催

【現状と課題】

現状

中央図書館と3地区館の設置により市内全域サービス体制が整い、利用が増加しました。一方、開館時間の制約から利用者が限られている面もあります。近年は団塊の世代の利用の増加や子育て世代の要望等、新たなニーズが生まれています。まちの情報の積極的収集、市民の憩いの場の提供、開館時間の延長等多くの要望もあります。

長時間開館は、現行の体制で可能な形での試行を行い、検証をすすめます。

市民とのパートナーシップの推進では、子ども読書活動や音訳資料の作製で市民との協働の実績がありますが、他の領域に広がっていない現状があります。

課題

開館時間の延長や、まちの情報の積極的収集や市民の憩いの場の提供など、市民ニーズに即応できる組織体制が必要となってきます。

多様化・高度化した市民ニーズに応えるため、専門的業務を中央図書館に一元化したサービスの充実が必要です。地域資料や行政資料の保存のため責任ある一貫した体制が求められます。

市民に身近な拠点である地区館には、地域のニーズに柔軟に対応する運営が必要です。とくに子ども、子育て世代、高齢者をはじめ、すべての市民にサービスする体制、読書を通じた交流や地域づくりに寄与する運営が求められます。

さらに、ボランティア活動への参加希望もあり、市民が参加する図書館活動の仕組みの整備が求められています。

2 資料の充実

①市民ニーズに応える選書と蔵書構成 ②資料の年間購入計画を作成・公開 ③東久留米市の地域資料や行政資料の充実 ④書庫スペースの増設

【現状と課題】

現状

市民ニーズに応える選書と蔵書構成の構築には現在も努めていますが、市民の要望は多様化し、蔵書数が足りないのが現状です。蔵書数は多摩地域の公立図書館の平均値をかなり下回っています。インターネットや電子情報の提供についての要望も高く、環境整備が必要になっています。

行政資料の充実については刊行された資料などは備えていますが、歴史資料として重要な公文書の収蔵などには至っていません。書庫は満杯状態で、今後地域資料の保存をすすめるためにも収容冊数の拡充が必要です。

課題

多様化する市民ニーズに応じて行くためには、収容スペースをいかに確保するかが大きな課題となります。限られた施設を有効活用し、効率的な収集と管理が望まれます。そのため、中央図書館、地区館のそれぞれの役割を踏まえた上で、一元化した蔵書構成をはかる一貫した選書体制が必要です。また、資料収集に関する情報を積極的に発信し、利用者の要求に応じて行くための体制作りが求められています。

書庫の増設については、施設の制約や厳しい市財政の現状もあり、すぐには困難な状況です。中央図書館の施設の転用等の検討を行うなど、収容スペースの確保が求められています。

3 図書館は地域の百科事典

①地域資料の収集・保存と発信 ②近・現代の市史の編纂支援

【現状と課題】

現状

東久留米市の歴史や文化、市政の変遷を伝える資料の収集、保存を重視して取り組んでいます。地域資料に対する市民の期待は高く、多摩六都の図書館共通で実施した利用者アンケートでも高い関心が寄せられ、利用も増加しています。

そのような中で、近・現代の市史編纂等への資料提供などが期待されますが、体制としては不十分です。

課題

市内の各部署との連携を十分図りながら、積極的な収集と保存をするための体制作りが課題となります。博物館的機能（文化財担当）や文書館的機能（文書管理担当）などと図書館の連携を検討していきます。また、学校や市内の事業所、市民活動と連携する取り組みが求められます。常に資料についての専門性を保持し、継続して運営できる体制が求められます。

4 学校との連携

①地域の教育力を高める支援 ②東久留米市子ども読書活動推進計画を実施 ③学校図書館の支援と連携 ④地域の読書ボランティア活動の支援と連携

【現状と課題】

現状

「東久留米市子ども読書活動推進計画」（平成19年3月策定）により、学校、地域、家庭の総合的な読書活動の取り組みが示されました。従来より活発に行われている地域の子どもの読書活動に加え、学校との連携やブックスタート事業の充実等、行政と市民の協力が進みました。今後は、第2次計画の策定に向け図書館はその中核となります。

課題

学校での読書活動、資料を使った学習は、学力向上にとって重要であり、今後、学校図書館機能の一層の充実が必要です。学校の状況や要望にあわせた支援を継続していくことが望まれます。

5 図書館利用に障害のある人々へのサービスの充実

①高齢化への対応 ②デジタル化への取り組み ③宅配サービスの充実 ④対面朗読の充実

【現状と課題】

現状

視覚障がい者を中心とする図書館の障がい者サービスは、市民ボランティアとの協働により30年来取り組んでいます。近年、技術の進歩により資料の媒

体や提供方法が大きく変化しています。また、著作権法の改正によるサービスの対象も拡大し、高齢化にともない利用も増加しています。

そのため、平成23年度には、図書館利用に障害のある人々へのサービスの規則改正や要綱の見直しを行ったところです。

課題

さらなる高齢化の進行や資料情報のデジタル化に対応して、利用者のニーズに合ったサービス内容や、資料情報の提供方法の充実などが求められています。高齢化にともなう需要の拡大やサービスの変化が予想されるため、確実に対応できる継続した体制づくりが望まれます。

6 図書館はすべての世代の支援施設

- ①世代間の共生 ②子育て支援 ③子どもたちへの読書活動の推進
④青少年の活動の場の提供 ⑤高齢者の生きがい創出の場

【現状と課題】

現状

図書館はあらゆる世代の市民が利用します。これまでの歴史を担ってきた高齢者と将来を担う若い世代の交流の場の一つとして、図書館が挙げられます。市内の各図書館では、新たにティーンズコーナーを設置し、青少年に向けた情報発信を積極的に行っています。学校休業時の学習室の設置も好評です。若い世代への支援として仕事の情報の提供を行うなど、様々な世代の方に対する課題解決の支援を積極的に推進しています。

課題

これからは、高齢者と若い世代の交流や、市民の出会いと活動の場を創出することが求められています。赤ちゃんから高齢者まで、様々な世代の活動や学習支援の環境整備が求められています。

また、図書館ボランティアの導入等、市民の活動する場の提供が課題となります。

7 滞在型利用ができる地域のサロン

- ①長時間滞在できる空間の創出 ②施設改善計画の策定

【現状と課題】

現状

開館と同時に新聞・雑誌を利用し、長時間滞在する市民が増えています。その大半の市民は、図書館で時間をかけて過ごし、館内でさまざまな日常生活のための情報を得ているように見受けられます。しかし、図書館資料を借りずにそのまま帰宅される方が多く図書館の統計上には反映されませんが、大事な図書館利用者です。学習や仕事のために図書館を利用する市民も最近多く見受けられるようになりました。市内の図書館は、貸し出しを重視する考え方が一般的だった時期に整備され、館内には十分なスペースがなく、座席数やくつろげる空間が確保できていません。学習室や閲覧席の拡充、インターネット利用環境の整備等は高い要望です。

課題

施設の現状において、改善の余地のある中央図書館の施設と運用を見直し、施設改善を計画的に進め、座席数などのスペースの確保を考えることが求められます。市民の書斎としての機能の充実が新たな課題であると考えます。

8 国際化の窓口

①地域の国際化の推進拠点 ②多文化コーナーの設置 ③外国語による接遇の向上

【現状と課題】

現状

国際化の推進拠点をめざし、日本語では読書や情報収集等ができない外国人への資料提供をはじめ、市民が国際理解を深められるよう全館に多文化サービスのコーナーを設置しました。平成23年度には大使館資料の更新を図りました。

また、各館カウンターには語学が苦手な職員でも外国人に対応できるようにカウンターマニュアルが設置されています。

課題

在日外国人のための情報提供と、市民が国際理解を深められるよう多文化サービスの充実が求められていますが、職員の窓口対応や各種の表示や案内などにおいてはまだ充分とはいえません。引き続き資料の充実を図るとともに、外国語による接遇ができる人材の確保を図るなど、利用しやすい環境を整備する必要があります。

9 図書館員はアドバイザーでありプランナー

①専門職員の配置 ②地域の活動をコーディネート

【現状と課題】

現状

開館以来一貫して、専門職を配置し、地区館整備に並行して図書館専門員を配置しました。司書職職員は減少していますが、図書館専門員は専門業務を含むあらゆる図書館サービスを担っています。司書によるきめ細かな専門的な対応により、蔵書不足やデータベースの未整備等を補っています。

子ども読書活動における地域活動との連携や図書館利用に障害のある方に対する事業やボランティアの育成など、地域と図書館の協働する事業にとりくんでいます。

課題

今後は、(資料の充実の項でも挙げられています) 市民ニーズの多様化や業務の高度化に対応するためにも、様々なスキルを持った専門職の確保も必要です。また、図書館員には、資料への専門性に加え、市民相互の交流や学習活動のコーディネートや図書館事業への市民参加のプラン作成などの役割が望まれます。

10 広報活動の充実

①図書館活動のPR活動の推進 ②ホームページの充実 ③登録率のアップ

【現状と課題】

現状

図書館ホームページは資料の貸し出し延長手続きなど新たな機能が加わり、同時に調べものやティーンズコーナーなど図書館職員による新たな機能や情報ボタンを順次整備しています。

しかしながら、まだ図書館を利用していない市民に積極的に働きかけ、利用を広げるために、十分機能を果たしているとは言えません。そこで、図書館未利用者に対して魅力的な情報を発信しようと検討を重ねています。その一つが「東久留米らしさ」を強調した新たなコンテンツの開発です。今後、十分に検討し計画的に整備をすすめます。

課題

WEB 上での有効な情報発信、地域での身近な情報提供の双方を充実させ、

図書館未利用者を含む利用者の拡大を図ることが求められます。

1 1 市役所と連携し行政資料のオンライン化

①市政情報コーナー等とのデータの共有化 ②行政のための情報センター化

【現状と課題】

現状

市政情報提供や保存については、市役所各課や議会などで行っていますが、横断的な連携体制はまだ確立されていません。

課題

市政情報コーナー・行政資料室・議会図書室等との連携をし、資料の収集・保存体制を確立し、行政のための情報センターとなることが求められます。さらに、公文書等の保存年限を経過し、歴史的に保存する意義があると判断された文書等の保存を一元的に行う公文書館的役割も求められます。

Ⅲ 今後の取り組み

東久留米市第4次長期総合計画および「市民と共に歩む図書館をめざしてー東久留米市立図書館がめざすものー」が示す図書館の将来像を実現するために、前項で抽出した現状と課題を検討した結果、先ず図書館は次のことに取り組みます。

1 市民ニーズに合ったサービスの向上

市民ニーズに迅速かつ柔軟に対応し、サービスに反映させる運営体制を確立します。要望の高い事項の実現をめざし、より多くの市民が利用できるよう開館時間を改善します。また、インターネット利用環境の整備、学習スペースの拡充、書架の増設等、現状での創意工夫と施設改善をめざします。さらに、ホームページの充実をはかり、図書館システム更新の機会には、データベースの改善や非来館型サービスの充実をめざします。

2 資料・蔵書の充実

図書館は、国立国会図書館、都立図書館、専門図書館、全国の公共図書館と連携して事業を行っていますが、とりわけ東久留米市の地域資料の収集・保存は、

東久留米市立図書館が責任を持って取り組む事業です。文化財、文書管理担当など関係機関と連携し、東久留米市政や教育、市民の歴史を保存する体制を検討します。そして将来の市史編纂事業等、市の歴史を振り返る時のために備えます。

また、市民の課題解決につながる多様な資料を収集し、レファレンス（学習や調査研究のために資料やインターネットを使って課題解決をはかる人的援助）や専門機関紹介等、高度な情報提供に対応するサービスの向上をはかります。収容スペースの確保やデジタル化など、資料の保存について検討します。

3 すべての市民に学習機会を提供

高齢化の進行に伴い要望が増えると思われる、来館が困難な方へのサービスの提供、視覚障がい者など通常の図書の形態では図書館サービスを受けにくい利用者に対するサービスの拡充と担い手の育成をすすめます。また、多文化サービスの充実をはかります。

東久留米市子ども読書活動推進計画（第2次）を策定し、学校・地域と連携した読書活動をすすめます。学校支援を継続し、資源共有化ネットワーク（学校と図書館の資料の情報を共有化し相互利用できるシステム）や学校図書館の連携のあり方を検討します。

学校や市の関連施設、他機関、市民活動と連携して、多くの方に学習機会を提供する図書館活動をすすめます。

4 市民の交流の場としての図書館

地域を支える図書館として、市民の交流の機会・場所を提供し、暮らしやすい地域づくりを支援します。地域のコミュニケーションが減った現代、本や雑誌、情報を核とした人と人の出会い、交流の場としての図書館の役割が重要視されるようになりました。事業の運営や管理へのボランティア参加等も含め、地域の拠点となる運営をめざします。

また、交流の場を創出するための施設改善や運用方法の変更についても検討します。

5 図書館運営への市民参加

行政が事業・サービスを提供する図書館から、市民が利用し、活動し、育てていく図書館へ発展させる運営体制を検討していきます。

IV 新たな図書館の運営

1 実現の方向性

今後の取り組みについては、蔵書や資料の収容スペースの確保や世代交流や活動の場の創出のための施設改善など施設面のほか、市民ニーズに柔軟に対応する運営や、開館時間の延長、多文化サービスをはじめとするサービスの充実、図書館運営への市民参加など運営面での課題もあります。

一方で、効率的な管理運営を実施し、経費を抑制しつつも、図書館の基本理念や新たなニーズ・市民要望に応える図書館をめざす必要があります。行財政改革アクションプランでは、図書館について、「市行政の担うべき役割の重点化、民間活力の活用・外部委託（アウトソーシング）、図書館管理運営の項目において、地区館の新しい体制による運営の実施」という行動計画が示されています。

これらを踏まえ、図書館の取り組みをすすめるための運営方法について検討しました。

この検討の中で、中央図書館は選書や高度情報提供等の専門的業務や市の歴史資料保存の役割、地区館は地域に根ざした身近な情報提供や地域の人との交流の役割と、生涯学習の推進という同じ目的の施設でありながら各々の役割の重点の違いを確認しました。以下に中央図書館、地区館、それぞれの役割の違いに応じて、その運営の考え方をまとめました。

2 中央図書館の運営

中央図書館については、専門的業務の一元化や行政資料の収集・保存・提供、近・現代市史の編纂支援などの役割が求められます。また、市民ニーズに応える選書と蔵書構成、個人情報を含む図書館システムの構築や管理、図書館協議会などについては、行政が自ら責任を持ってあたる必要があると考えます。従って、中央図書館の運営については、現時点ではアウトソーシングすることなく行政自ら運営していくことを基本と考えます。

また、市民との協働の体制の構築などについては、引き続き行政の関与が必要です。

ただし、今後地区館の新たな運営状況を踏まえて、中央図書館のアウトソーシングについても検討を行います。図書館の業務内容、要求する水準を明らかにした上で、専門性の確保や効率化の視点でアウトソーシングの検討を行うことが必要です。同時に、図書館管理・運営を所掌する職員、司書職や図書館専門員という専門職のあり方を検討する必要があります。

市民の学習のための利用、調査・研究への支援など、本来の図書館の目的に対

する利用は増え、中央図書館のサービスの向上への要望も高まっています。反面、図書館の現状は、蔵書数、管理システム、利用スペースのいずれも高い水準にはありません。市民のニーズを満たすためには、中央図書館のサービスの充実が必要です。

3 地区館の運営

地区館については、地域に根ざした図書館ということで、市民の身近な課題解決や読書のための施設として役割が求められています。すぐに解決できる体制－わかりやすい職員の接遇や柔軟な対応が求められます。利用者は高齢者から乳幼児まで幅広く、子育て支援や世代間交流、生きがいの創出といった役割も期待されます。地区館は3館とも地域センターに設置されており、併設の児童館、高齢者施設、コミュニティ施設との連携も有効であると考えられます。

地区館の資料は、生活に身近な問題解決のための資料、文学、児童図書などが中心で蔵書数も限られています。蔵書構成は利用の傾向が反映されており、すぐに役立つ資料、読書を楽しむための本、児童図書や高齢者に適した資料などがよく利用されています。地区館は図書館の第一線の窓口であり、使いやすい資料と親身な対応が求められています。

地区館のサービスを向上させ、より地域に根差した柔軟な運営を行うには、新しいノウハウを持つ団体へのアウトソーシングが有効です。選書や高度な情報提供サービスは中央図書館に一元化することにより、地区館はより市民に身近な業務に特化した運営をめざし、アウトソーシングを導入します。

アウトソーシングにあたっては、とくにコミュニティの創出と地域の実情にあったきめ細かなサービスの提供、読書や情報提供に関する専門性の確保を目的に導入すべきと考えます。アウトソーシングの手法のうち業務委託は、定型業務に限られ、市民ニーズに対して即応が可能な体制が取りにくく、効率化の視点でも市行政の負担の軽減も小さく、効果が低いと考えられます。そのため利用者の要望に対し柔軟な運営や創意工夫が期待できる指定管理者制度を基本と考えます。これまでの行政の運営では実現できなかったより市民に身近で、市民が活動できる図書館のあり方の提案を期待します。

地域密着の親しみやすい存在とはいえ、個人の思想・信条にかかわる読書や個人情報扱う図書館では、プライバシー保護に十分配慮した運営を行うことに変わりはありません。

地区館のアウトソーシングにより、地区館運営に関する人員配置は必要なくなり、職員削減が図られます。中央図書館への専門職の集中を行うことが可能になります。

なお、新たな運営体制にあたっては、これまで東久留米市立図書館は、おはな

し会や録音図書の作成など、多くのボランティアに長きに亘って支援をいただいております。図書館の良き伝統となっています。市民ボランティアとの協働を今後もしっかり受け継いでいくことが重要です。

4 効率的な運営と経費配分の見直し

図書館運営の効率化の目的は、市民ニーズに見合うサービスの向上です。蔵書の増加やサービスの向上が求められています。図書館システムを総合的に見直し、図書館経費の多くを占める人件費を精査し、資料費やサービスにかかる経費へ配分できるよう、市役所全体の定員管理と並行して、今後も効率化の検討をすすめます。

V おわりに

「市民と共に歩む図書館をめざして－東久留米市立図書館がめざすもの－」では、今後の図書館のあり方についての将来像を描いています。

その中で提案されている東久留米市のアーカイブズ機能の確立やインターネットや IT 技術を整備した学習センター機能の充実、学校図書館とのネットワーク化、中央図書館の施設改修など、すぐに実現できないものや将来長い見通しの中で解決すべき課題もあります。これらの課題については、多額の財源が必要と考えられるものもあり、簡単なことではありませんが、「市民と共に歩む図書館をめざして－東久留米市立図書館がめざすもの－」の着実な実現を望みます。